

令和3年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会

副部会長 小布施町立小布施中学校 川本 修一

本年度の長野県図書館協会小中学校部会では、「学びと心のより所となる学校図書館―学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して―」のテーマのもと活動を行いました。

当部会が目指す学校図書館運営としては、主なものとして、以下の4点になります。

- 「1. 創造力を培い、豊かな心を育む『読書センター』としての学校図書館」
- 「2. 知的活動を促し、自ら学ぶ力を育てる『学習センター』としての学校図書館」
- 「3. 情報活用能力を伸ばす『情報センター』としての学校図書館」
- 「4. 学校内・外が連携して教育力を高める学校図書館」

これら4点については、新学習指導要領で言われている「主体的・対話的で深い学び」「情報活用能力の育成」「社会に開かれた教育課程」等ともつながり、今後ますます学校図書館の果たすべき役割が大きくなっていくと考えられます。教育課程に位置づけられた学校図書館のあり方を今後も探っていきたいと考えています。

部会では、司書教諭、学校司書、推薦課題図書選定、読書感想文・感想画コンクール、出版物利用促進、部会だよりの各部において実践してまいりました。読書感想文コンクールでは、昨年度に比べ、応募校数は23校増、応募作品数190編増となりました。各支部および各校での取り組み、ご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

学校司書委員会・司書教諭委員会では、学校図書館及び子どもの読書活動の一層の充実に貢献することを目的としています。今年度の活動の中心を、昨年度ご協力いただいた「図書館運営における新型コロナウイルス感染防止対応アンケート」、「図書館ICT環境アンケート」の二つのアンケートの集計結果と考察を共有し、これからの学校図書館のあり方を考え県大会（中野下高井大会）で発信することとしました。

両委員会の委員が「図書館運営チーム」「ICTチーム」に別れ、アンケートの考察や発表内容の検討、当日の発表を行いました。どちらのチームに所属するかを希望制としたため、学校図書館司書の皆さんと司書教諭の皆さんの人的交流を図ることができました。アンケートの集計結果や考察の発表にとどまらず提案型の発信をすることができ、新しい図書館像へと繋ぐことができました。例を挙げると、ハイブリッドの図書館教育・読書指導、一人一台端末を使った選書のワークショップ、感染症対策の具体的な実態の共有、Safety・Speedy・Simpleな対応と運営、エージェンシーを育む図書館教育・読書指導などです。

最後になりましたが、本年度の長野県図書館協会小中学校部会の活動にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げますとともに、令和4年度第72回長野県図書館大会（下伊那大会）へのご協力をお願いいたしまして活動報告といたします。

支部だより

飯水支部

飯水支部代表 飯山市立城南中学校 小山 正博

飯水支部では、飯山市、栄村の小学校8校、中学校3校、計11校から成ります。各図書館関係団体と連携しながら活動を進めてきました。

1 活動内容

(1) 飯山市図書館協議会

○第1回 令和3年度年間計画作成等 6月 4日(金) 飯山市公民館

○第2回 令和3年度事業報告 令和4年度事業計画 2月24日(木) //

(2) 長野県図書館協会 飯水支部理事会・総会 7月 5日(月) 飯山市立図書館

○令和2年事業報告・決算報告

○令和3年度事業計画・組織編制・予算案承認

○令和4年度の負担金承認

(3) 第44回長野県読書感想文コンクールへの応募

○支部審査 9月14日(火) 飯山市立図書館

・応募総数 63編(小学校 44編 中学校 19編)

・県送付作品数 29編(小学校 24編 中学校 5編)

(4) 飯水司書部会

○第1回 5月17日(月)

文科省「学校図書館ガイドライン」の目的の確認、図書館運営についての情報交換

○第2回 10月22日(金)

図書館の環境づくりの各校の取り組み(事例発表)

○第3回 12月21日(火)

学校図書館司書と司書教諭との連携方法について各校の事例発表

2 活動を振り返って

○今年度は飯水司書部会を年間3回行った。学校司書の先生方の魅力ある図書館づくりや課題等をお互いに発表することができて、大変有意義な研修会になった。

○読書感想文コンクールは、各校の協力で円滑に進めることができた。今後も多くの児童生徒に参加を呼び掛けていきたい。

○今年度の長野県図書館大会中高大会が参集とオンラインの併用での開催となったが、このようなハイブリットな参加方法であると大変参加しやすいと思った。

下伊那支部

下伊那支部代表 売木村立売木中学校 濱中 浩

下伊那支部は下伊那郡下（飯田市・高森町・阿南町・松川町・大鹿村・豊丘村・喬木村・泰阜村・阿智村・平谷村・根羽村・下條村・売木村・天龍村）小学校43校、中学校21校、計64校で組織されている。各図書館関係諸団体と連携しながら活動を進めてきた。

1 活動内容

(1) 第44回長野県読書感想文コンクール応募

支部審査日 9月7日（火）下伊那教育会館 審査委員6名

応募総数 72編（小学校 24編 中学校 48編）

県送付作品数 31編（小学校 16編 中学校 15編）

(2) 夏の図書館研修会 8月4日（水）

会場：豊丘村交流学習センター（ゆめあるて）

参加者：50名

講演：演題 「絵本でSDGs～絵本から世界につながる～」

講師 朝日 仁美氏（絵本でSDGs推進協会代表理事）

(3) 図書館大会への参加

第71回長野県図書館大会（中野市） 11月 6日（土） 参加者11名

南信地区学校図書館教育研究会（箕輪町）・・・コロナ禍のため参加できず

(4) 飯田市学校図書館担当者研修会への参加 7月30日（金）

会場：上郷図書館

内容：読み聞かせに関する研修、調べ学習用資料に関する情報交換

学校図書館経営計画の情報交換、ポプラディアの購入と廃棄について

(5) 学校図書館担当職員支援

学校図書館の管理運営について初めて図書館担当になった先生について支援を行う。

(6) 情報誌「らいぶらりめぐり」NO. 30の発行

2 活動を振り返って

- 夏の図書館研修会については、図書館に関わる先生方にとって大変有意義な研修となった。今後も図書館教育係や司書の先生方が望む研修を企画していきたい。
- 長野県読書感想文コンクールに携わり、下伊那教育会学校図書館委員会独自の要項を作成し応募を呼びかけている。しかし、応募数が少なくなると共に、提出前の指導が不十分なところが見られる。先生方への負担も考慮しながら、読書感想文の指導についても発信をしていきたい。
- 令和4年度に開催される第72回県大会開催に向けて準備が始まっているが、各学校や公共図書館とも連携を図り、今後の学校図書館の役割やあり方について考えていきたい。

図書館職員等ステップアップ研修 参加報告

GIGA スクール構想に向けて学校図書館が果たす役割

長野市立松代中学校 岡澤 裕美

昨年9月28日、上記の研修に参加させていただきました。新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインでの開催でした。講師の茅野市こども読書活動応援センターの林尚江先生から「デジタル化が進む中で、学校図書館を利活用し、子どもたちにどのような力をつけていったらよいのか、そのために司書教諭、学校司書、担任はどうしたらよいのか」を講義内容としてお話しいただきました。

始めに「GIGA スクール構想」とはなんだろう、ICT教育とはどのような事なのか情報を共有するために教えて頂きました。次に新教育課程・学習指導要領について、そもそも何か、それぞれどのように図書館が関わっていくのか、児童生徒が何を学んでどこに向かっているのか、知っておいた方がいいこととお話しいただきました。学校図書館に求められていることは何か。中でも図書館に関わる先生は小学校の学習指導要領、国語編を読んでみるべきとのことでした。また「デジタル化が進む中においても、自分なりに考えて調べて紙に書いていくという作業は、子どもが小さいうちに体感すべき」との言葉が印象に残りました。

学校図書館法の改正や学校図書館ガイドラインについては「なぜ学校図書館が必要なのか、公共図書館とは何が違うのか、何でもいい訳ではなく学習に役立つ事を意識して学校図書館の運営をしていかなければならない」とお話しいただきました。選書に関しても、必要な本、偏りのない本はどういうものか、司書会などで勉強すべきとのご指摘に、学校司書としても大変参考になりました。

また今回の研修の中で印象深く、今後図書館としても気を付けていくべきは、児童生徒が著作権に関連して「引用」や「出典」を理解しておく必要があるということです。これは教科書にも掲載されている、と指摘していただきました。

以前、図書館を利用した調べ学習がありましたが、資料を探し読み込み、まとめることはできて、それは何を参考にしたのか記録していない生徒の姿があり、慌てた事があります。実際に資料を提供する立場の学校司書の間でも「記録を取るようこちらから提案していこう」と話題になった事のひとつです。林先生の「一人一台端末になって著作権の指導は情報モラルと関わって低学年から発達段階に合わせて指導が必要です。」とは、まさに今スタートした一人一台端末の現状に合わせて、丁寧に指導していかなければならない事だと実感しました。

今回、講義の中で多くの本も紹介していただきました。どれも今後図書館運営をしていくにあたり読んでおきたい資料です。端末がひとり一台の今、図書館としての関わりも変わってきます。自らアンテナを高くして、今後の図書館運営に活かしていきたいと思います。

パスファインダーの作成と活用

長野市立戸隠中学校 学校司書 柳澤 幸江

2021年11月25日に、ステップアップ研修『パスファインダーの作成と活用』のZOOM研修が行われました。講師は元松本大学松商短大教授の篠原由美子さんで、内容は、1 パスファインダーとは？ 2 パスファインダーの作り方 3 パスファインダーバンクとしての学校図書館しらべ案内「探究ナビ」という内容でした。

パスファインダーとは調べ方ガイドのことで、利用者が自力で情報資源を探索・入手するのにサポートするリーフレットのことです。児童生徒が図書館で調べ学習をするとき、自ら必要な情報に辿り着けるようデザインされた、道案内となるものです。

パスファインダーの作り方にはおおよその型があり、労力をかけすぎず、形式を統一し、情報量を多くしないのがポイントで、①タイトル(トピック)②導入の言葉③キーワード④入門的な情報資源(ポプラディア等の百科事典)⑤分類記号⑥図書館の情報資源(ポプラディア等の次に繋がる資料)⑦逐次刊行物・視聴覚資料・web サイト・他館案内等⑧コメント・制作館名・制作日等を、A3一枚～二枚程度にまとめる、とのことでした。

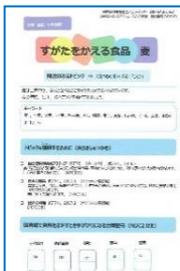
パスファインダーの制作は、学校図書館と公共図書館と連携すると良いという話を受け、長野市立長野図書館制作のパスファインダーを参考にしつつ、自校の図書資料を反映する形で作ってみました。市立長野図書館から団体貸し出しをしていただいているので、両館の図書資料を反映しました。

実際にパスファインダー制作をして感じたことは、時間と手間がかかるということ。学校司書の短い勤務時間内で作るのには厳しく、家での作業も必要でした。しかし、パスファインダーを作る過程で、自校館内資料をよりよく知れたことや、使える図書資料が揃っているか資料見直しのいいきっかけになりました。

学校図書館・しらべ案内(探究ナビ)は、パスファインダーバンクとして、教科書に即したパスファインダーが小学1年生から中学3年生の各学年、各教科で検索でき、同じ一つの単元でも主題から複数のトピックが紹介されています。現在49のパスファインダーがアップされているので大変参考になります。

パスファインダーがあっても、児童生徒へのレファレンスは必須です。これからも授業の下支えとして、授業支援ができる学校図書館、学校司書でありたいと思いました。

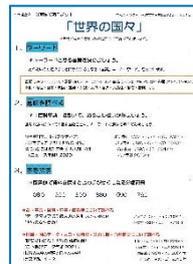
研修資料・伝統的 PF (1/3)



長野市立図書館 PF (1/2)



戸隠中学校図書館 PF (1/2)



戸隠中出典の記録用紙



第31回 北信越地区学校図書館研究大会 (第30回 富山県学校図書館研究大会)富山大会(オンライン開催)に参加して

長野県図書館協会小中学校図書館部会幹事
長野市立戸隠小学校 大橋 あゆみ

第31回北信越地区学校図書館研究大会である富山大会が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインによる発表及び記録集の発行という形で開催されました。グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会が急速に大きく変化する中、学校教育を取り巻く環境も大きく変化しています。富山大会では、こうした新しい時代に向けた、学校図書館を活用した学習活動の在り方や学校図書館の役割について学ぶ場となりました。以下、ご報告いたします。

- 1 開催期日 令和3年10月1日(金)～22日(金)
- 2 主催 富山県学校図書館協議会 北信越地区学校図書館連絡協議会
公益社団法人全国学校図書館協議会 富山県教育委員会
- 3 開催形式 オンライン開催(期間限定配信)
- 4 大会テーマ 「新しい時代の図書館づくり」
- 5 内容 【全体会】
 - ① 大会長あいさつ
 - ② 全国SLA報告「学校図書館の現状と課題」
公益社団法人全国学校図書館協議会 理事長 設楽 敬一 氏【分科会】
 - ① 提案者からの研究発表
 - ② 指導助言者からの指導助言

6 概要

大会テーマである「新しい時代の図書館づくり」に向かって、各分科会では貴重な実践報告がありました。分科会Aでは「読書センターとしての学校図書館の在り方」として、児童生徒の読書量を増やし、読書の幅を広げるような取り組みが紹介されました。息の長い地道な取り組みや固定概念を見直し、図書館機能を外に持ち出して、児童生徒がより本に触れやすくなるようにした取り組みなど、児童生徒を真ん中にした各校の取り組みは大変参考になりました。分科会Bでは「学習・情報センターとしての学校図書館の在り方」として、GIGAスクール構想の中で学校図書館はどうあるべきかを模索した取り組みが発表されました。学習・情報センターとして機能するような環境の整備や蔵書の見直しを行うとともにICTと書籍を繋げるような試みやICTと書籍のそれぞれの特性を活かすような試みは、自校にも取り入れたいと思うものでありました。情報化社会を生き抜いていく児童生徒が、膨大な情報に溺れたり流されたりせず、主体的に情報を選び活用し、発信していく能力を身につけていけるような学校図書館の在り方について考えさせられました。分科会Cでは「図書館運営の在り方について」発表がありました。児童生徒にとって安全で快適でより充実した図書館を目指し、今ある環境や人材を最大限に活用しながら運営している取り組みに学ばせていただきました。

今年度の北信越地区学校図書館研究大会は、オンライン開催(期間限定配信)であったが故に、すべての分科会の発表を繰り返し見ることができ、大勢の先生方と気軽に参加することができた、有意義な大会でした。

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立豊栄小学校 関川 あかね

令和3年度、第44回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

| | | |
|-------------------|--------------|------------|
| ◇応募校数：361校 | ◇応募作品数：2964編 | ※小・中合計数で表示 |
| ◇県入選（県応募）作品数：563編 | ◇県入賞作品数：254編 | |
| ◇中央審査会応募作品数：8 | ◇中央入賞作品数：1編 | |

昨年度は、応募作品総数が大幅に減少し、要因として、児童数の減少や教育課程の改定に伴う教育活動の多様化で読書指導の時間の確保が難しくなっていることや新型コロナウイルス感染症のため教育活動の予定変更が余儀なくされたことなどが挙げられていました。今年度も世界規模で蔓延している新型コロナウイルス感染症は収束のないままでしたが、応募数、応募作品数が共に増加の傾向となりました。コロナ禍での各支部や各校の取り組みやご指導に大変感謝しております。

支部・県審査委員の先生方には、多くの感想文を精読し厳正に審査いただきました。今年度は、新型コロナ感染予防のため、県審査会を短縮し開催した結果、ご自宅へ持ち帰りの審査が多くなり、ご負担をお掛けすることとなりました。また、今年度も小・中学校図書館部会OBの先生方に審査のお手伝いをいただきました。審査にあられた諸先生方に、厚く御礼申し上げます。

県審査にあられた先生方からは、「主人公と自分を重ねて考え、低学年ながら主題に迫りこれからの自分について考えている作品には力強さを感じた。」「素直な感想、率直な思いを書いている感想文が多かった。課題図書の読みやすさが理由の1つであると思われる。登場人物と自分を重ねたり共感したり比較したりと読書の際に大切にしたい読み方ができている生徒が多く非常によかった。」等の貴重な感想をいただきました。

一方、今年度も時数不足や表記誤り等の審査基準を満たさない作品がありました。特に、大幅の字数不足や応募方法の不備が目立ち、支部長会等で、年度当初に直接お願いできなかった影響かと考えられます。

また、剽窃が疑われる作品がありました。昨今は、読書感想文をサポートするインターネットサイトが多く存在し、作品別、文字数別に感想文例が掲載されていたり「コピー可」と謳われていたりするものもあります。児童・生徒が各自一台タブレット端末を貸与され、学習でインターネット検索することが当たり前になっています。今後は、審査要項に沿った応募や読み直しや推敲等の見届け等の指導と共に情報リテラシーの観点からも指導いただくようお願いしていかなければならないと感じます。

令和3年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

| | | |
|-------------------|-------------|------------|
| ◇応募校数：19校 | ◇応募作品数：412点 | ※小・中合計数で表示 |
| ◇中央コンクール応募作品数：10点 | ◇中央入賞作品数：0点 | |

本年度の応募校は昨年度より2校増え19校となりました。応募作品数は、昨年度の466点より減少しました。美術・図画工作科の時数が減少し絵に取り組む時間自体が減っていると聞きます。教育活動や年間指導計画に位置付けていただけのような早めの声掛けの工夫が必要と感じます。

応募作品の審査にあたっては、子どもたちが、作品世界のどんな点に心揺さぶれて何を描こうとしているのかを念頭に、伸び伸びとまた丁寧に表現された作品を選定するよう心掛けました。各学級の担任や部活顧問の先生方の丁寧なご指導に感謝いたします。

今後とも、両コンクールが子どもたちへの読書の啓発の一助となりますよう、また意欲的な作品の応募を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、両コンクールにご尽力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第160号
発行日 令和4年2月28日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会小中学校図書館部会 (代表 浅井かよ子)